



手ぶらで キャンプ

tent-Mark
DESIGNS

鋳銭司

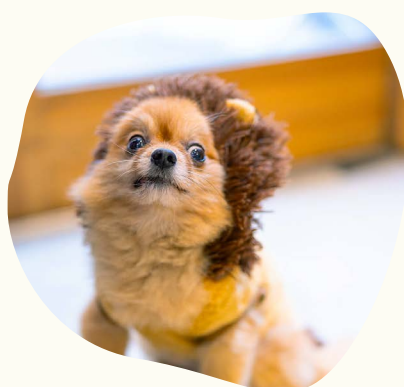
スゼンジハウス
森岡梨絵さん

小さなキャンプ場

焚火のゆらめきに人々が癒やされる小さなキャンプ場。山口南ICから3分の距離で県道194号から少し奥まったところにある。静かな木々の中でオーナーの森岡さんと看板犬のまんまるくんが利用者を出迎えている。

キャンプ初心者を中心にターゲットに2021年にオープン。近くに大きな建物が無く夜は静かに過ごせ、星空もきれいだと好評。キャンプ場では珍しい女性の森岡さんがオーナーという点も安心感があり、女性からの人気も高い。

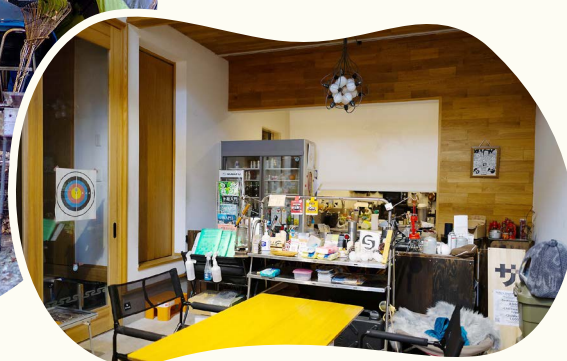
看板犬
まんまる



予約制でフードコートもあり「半端ないみそラーメン!」や「たぶん世界一うまいポテト」など味も美味しくユニークな名前のフードがアウトドアの楽しみを掻き立てる。



受付・フードコート



スゼンジハウス外観



ちょっとした非日常が楽しめる

最大の売りは手軽さ。「手ぶらでキャンプ」と銘打ち、テントはもちろん、テーブルやランタンなど必要な道具一式が借りられる。火起こしの準備から片付けまで任せてバーベキューと焚火が楽しめ、仕事終わりに訪れる人もいる。森岡さんは「昼間は仕事をしているのに夜になると自然の中で焚火を楽しんでいるというちょっとした非日常が楽しいのでは」と利用者の気持ちに思いを巡らせる。

くつろいだ雰囲気でのコミュニケーションを促せるバーベキューは企業の利用も多い。忘年会、納涼会にもってこいで特に新人研修では火を前に簡単な作業をしながら、社員らが自然と打ち解け合う。森岡さんは「バーベキューだとフランクに社員同士で話せるとリピートがある」と話し、今後企業へのアピールにも力を入れたいという。

山奥に位置していない点も移動が楽で、親子連れで気軽に訪れることができ好評。交通の便がよく県内外からの利用者も多い。福岡と広島の人の中継地として利用することもある。



テント内



人との交流を楽しみたい

元々は下関市で看護師をしていた森岡さん。人と人が交流する場所を提供したいと思っていたところ、パートナーの石松一将さんが敷地と古民家を所有している場所で共同オーナーとして開業した。

実は手軽さにたどり着いたのはたまたま。イベントスペースとしての利用も考えていたがコロナ禍でイベント開催が困難となり、そろえたキャンプ道具が生かせるアウトドアならと現在の形に。コロナが収まってからは恋活や音楽イベントも開催している。

好奇心旺盛な森岡さんは、利用者との交流を積極的に楽しんでいる。「人同士のつながりを大切にする素朴な田舎のイメージの場所。おばあちゃんの家に戻る感覚で利用してほしい」と笑顔を見せた。

所 山口市鋳銭司6247
※キャンプはウェブ予約制



Instagram



公式LINE